

カザフスタン

Republic of Kazakhstan

| | 2013年 | 2014年 | 2015年 |
|-------------------------------|---------|---------|---------|
| ①人口：1,767万人（2016年1月1日） | | | |
| ②面積：272万4,900km ² | | | |
| ③1人当たりGDP：9,796米ドル (2015年) | | | |
| ④実質GDP成長率（%） | 5.8 | 4.1 | 1.2 |
| ⑤消費者物価上昇率（%） | 4.8 | 7.4 | 13.6 |
| ⑥失業率（%） | 5.2 | 5.0 | 5.0 |
| ⑦貿易収支（100万米ドル） | 34,792 | 36,695 | 12,649 |
| ⑧経常収支（100万米ドル） | 1,187 | 6,375 | △5,823 |
| ⑨外貨準備高（100万米ドル） | 19,127 | 21,814 | 20,497 |
| ⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル） | 150,033 | 157,428 | 153,456 |
| ⑪為替レート（1米ドルにつき、テ ンゲ、期中平均） | 152.13 | 179.19 | 221.73 |

〔注〕③：は推計値、⑤：は各年12月の前年同月比、⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④～⑥：カザフスタン国民経済省統計委員会、③⑧⑩：IMF、⑦⑨⑪：カザフスタン中央銀行

2015年のカザフスタン経済は前年に続き国際石油価格の低迷と周辺国の経済不振の影響を受け停滞を余儀なくされ、貿易、対内投資ともに減少した。政府は国家石油基金からインフラ整備などに資金投入するなど景気対策を講じているが、為替の大幅下落も加わり2016年も停滞が見込まれる。日本からの輸出も減少しているが、安倍首相の訪問を契機とした経済関係の活発化に期待が寄せられている。

■ 厳しい経済情勢に直面

カザフスタン国民経済省統計委員会によると、2015年の実質GDP成長率は1.2%にとどまり、2年連続で前年を下回った。主要貿易相手国のロシアのマイナス成長と中国の景気減速、国内通貨テンゲの大幅下落などが影響した。鉱工業生産は前年比1.6%減と98年の6.2%減以来の減少を記録した。鉱業がロシアや中国などの需要減により2.5%減少し、製造業も0.2%の増加にとどまった。乗用車生産台数（推計）は66.5%減の1万2,450台へと大きく減少した。農業は穀物生産が前年よりも150万トン増え1,870万トンへと若干持ち直し3.4%増となった。建設業も4.3%増、輸送・倉庫業も6.0%（暫定値）増加した。

2015年8月、カザフスタンは完全変動相場制に移行した。2013年9月以来、管理変動相場制を維持してきたが、2014年以降のロシアのルーブル下落に続き、中国が人民元の切り下げを行ったことをきっかけに踏み切った。テンゲの対ドルレートは2015年8月初めの187.45テンゲから2016年6月末時点で338.87テンゲまで下がった。消費者物価上昇率（2015年12月）は前年同月比で13.6%と前年同月の7.4%を大きく上回った。

2016年上半年実質GDP成長率は前年同期比0.1%となった。国民経済省は、建設（6.6%増）、輸送（4.3%増）、農業（2.7%増）が貢献したと評している。製造業は0.5%増と伸びを維持している。消費者物価上昇率（6月）は前年同月比で17.3%と上昇を続けている。

国民経済省は2016年6月、下半期の景気浮揚策として

国家石油基金から915億テンゲ（約2億7,190万ドル）の投入を発表した。地方の住宅補修・インフラ整備、アスタナ国際空港の拡張、カスピ海沿岸のクリク港フェリーターミナルの建設促進などを想定している。

政府は2016年の経済成長率見通し（2016年2月発表）を0.5%としている（原油価格1バレル当たり30ドルを前提）。国際機関の2016年の見通しは、世界銀行0.1%（2016年6月）、IMF 0.1%（4月）、アジア開発銀行0.7%（3月）と厳しいが、いずれも2017年からの回復を見込んでいる。

■ 貿易、対内投資ともに急減

2015年の貿易（通関ベース）は、輸出457億2,560万ドルで前年比42.5%減、輸入が301億8,606万ドルで26.9%減と前年に続き大きく減少した。ロシアや中国など主要貿易相手国との間で減少している。

輸出減少の主因は鉱物資源価格の下落で、特に原油の輸出額は、最大の輸出相手国のイタリア向けが前年比49.8%減となったほか、オランダ、フランス、スイスでも輸出の大半を占める原油が40%以上減少した。中国向けも原油（58.0%減）や精製銅（32.3%減）が大きく減少し、ロシアも鉄鉱（48.5%減）、石炭（32.5%減）などが減少した。

輸入を国別にみるとロシアは原油を除く石油・歴青油（36.0%減）や乗用車（47.7%減）、中国は機械類、電気機器、鉄鋼製品など、ドイツは機械類や医療用品、乗用車などの減少幅が大きい。一方、イタリアはガスタービン

や圧延機、発電機などが輸入の増加に寄与した。米国からもガスタービン、加熱器や湯沸器などの輸入が増加し減少幅を緩和した。

カザフスタン中央銀行によると、2015年の対内直接投資額（実行ベース、グロス、フロー）は148億2,900万ドルで前年比37.5%減少し、2013年（16.6%減）、2014年（1.5%減）の減少率を上回る大幅な減少となった。分野別では鉱業・採石業が58.1%減と大きく減少した。

厳しい経済環境の中でカザフスタンは対外関係強化の努力を重ねている。96年1月の申請以来交渉を重ねてきたWTOへの正式加盟を2015年11月に果たした。外資と観光客誘致のため、2014年7月に1年間の期限付きで導入した

日本を含む10カ国に対する短期滞在目的の査証免除を2015年7月から20カ国に増やし、アスタナ国際博覧会（会期：2017年6～9月）の行われる2017年末まで延長した。国際輸送面では、カザフスタンを經由する中国－欧州間鉄道輸送が活発化している。また、日本も参加している大規模合弁事業で2013年から生産を停止していたカシャガン油田が2016年内に再開される旨、エネルギー相から表明がなされた。

■ 輸出が大幅に減少

日本側「貿易統計（通関ベース）」をドル換算すると、2015年の対カザフスタン輸出は前年比64.3%減の2億4,062万ドル、輸入は7.7%増の8億749万ドルだった。輸出は主要輸出品の乗用車（構成比35.2%）が70.5%減、鋼管（13.5%）が59.3%減と大きく減少した。輸入は大宗を占めるフェロアロイ（61.8%）が14.9%減少したが、原油が2.5倍となり構成比が2014年の14.2%から32.8%へ拡大した。

2016年に入っても、乗用車の輸出減少が続く。その影響で1～4月の輸出総額は前年同期比45.9%減となった。輸入はフェロアロイの減少（17.6%減）が続いているが、原油の一層の増加（6.4倍）により、30.3%増となった。

表1 カザフスタンの主要国別輸出入<通関ベース>

（単位：100万ドル、%）

| | 輸出 (FOB) | | | | 輸入 (CIF) | | | | |
|-----------|----------|--------|-------|-------|-----------|--------|--------|-------|-------|
| | 2014年 | 2015年 | | | 2014年 | 2015年 | | | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | |
| イタリア | 16,052 | 8,137 | 17.8 | △49.3 | ロシア | 13,808 | 10,232 | 33.9 | △25.9 |
| 中国 | 9,799 | 5,484 | 12.0 | △44.0 | 中国 | 7,357 | 5,083 | 16.8 | △30.9 |
| オランダ | 8,724 | 4,981 | 10.9 | △42.9 | ドイツ | 2,315 | 1,985 | 6.6 | △14.2 |
| ロシア | 6,389 | 4,343 | 9.5 | △32.0 | 米国 | 1,980 | 1,410 | 4.7 | △28.8 |
| フランス | 4,690 | 2,681 | 5.9 | △42.8 | イタリア | 1,038 | 1,174 | 3.9 | 13.2 |
| スイス | 4,539 | 2,659 | 5.8 | △41.4 | ウクライナ | 1,209 | 827 | 2.7 | △31.6 |
| ルーマニア | 3,153 | 1,343 | 2.9 | △57.4 | トルコ | 1,019 | 741 | 2.5 | △27.3 |
| トルコ | 2,272 | 1,277 | 2.8 | △43.8 | ウズベキスタン | 1,018 | 726 | 2.4 | △28.7 |
| ギリシャ | 1,946 | 1,260 | 2.8 | △35.2 | フランス | 1,085 | 671 | 2.2 | △38.2 |
| スペイン | 2,363 | 1,219 | 2.7 | △48.4 | 韓国 | 1,067 | 607 | 2.0 | △43.1 |
| 日本 | 741 | 859 | 1.9 | 15.9 | 日本 | 925 | 585 | 1.9 | △36.8 |
| 合計（その他含む） | 79,460 | 45,726 | 100.0 | △42.5 | 合計（その他含む） | 41,295 | 30,186 | 100.0 | △26.9 |

〔出所〕カザフスタン国民経済省統計委員会

表2 カザフスタンの主要品目別輸出入<通関ベース>

（単位：100万ドル、%）

| | 輸出 (FOB) | | | | 輸入 (CIF) | | | |
|-----------------|----------|--------|-------|-------|----------|--------|-------|-------|
| | 2014年 | 2015年 | | | 2014年 | 2015年 | | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 食料品・同原材料 | 2,638 | 2,076 | 4.5 | △21.3 | 4,336 | 3,366 | 11.1 | △22.4 |
| 鉱物製品 | 63,891 | 32,755 | 71.6 | △48.7 | 3,012 | 2,303 | 7.6 | △23.5 |
| 化学品・プラスチック製品・ゴム | 3,176 | 3,265 | 7.1 | 2.8 | 5,776 | 4,507 | 14.9 | △22.0 |
| 卑金属・同製品 | 6,771 | 6,009 | 13.1 | △11.3 | 4,324 | 3,993 | 13.2 | △7.7 |
| 機械・設備・輸送機器・電気機器 | 1,941 | 610 | 1.3 | △68.6 | 18,097 | 12,241 | 40.6 | △32.4 |
| 合計（その他含む） | 79,460 | 45,726 | 100.0 | △42.5 | 41,295 | 30,186 | 100.0 | △26.9 |

〔出所〕カザフスタン国民経済省統計委員会

表3 カザフスタンの主要国別対内直接投資<実行ベース、グロス、フロー>

（単位：100万ドル、%）

| | 2014年 | 2015年 | |
|-----------|--------|--------|-------|
| | 金額 | 金額 | 伸び率 |
| オランダ | 6,796 | 5,758 | △15.3 |
| 米国 | 4,124 | 2,781 | △32.6 |
| スイス | 2,366 | 1,881 | △20.5 |
| フランス | 838 | 964 | 15.1 |
| ベルギー | 860 | 693 | △19.4 |
| ロシア | 1,580 | 566 | △64.2 |
| 中国 | 1,861 | 443 | △76.2 |
| 韓国 | 578 | 396 | △31.4 |
| 日本 | 300 | 392 | 30.5 |
| 英国 | 747 | 391 | △47.7 |
| 合計（その他含む） | 23,726 | 14,829 | △37.5 |

〔出所〕カザフスタン中央銀行

2015年10月、安倍首相が中央アジア5カ国歴訪の最後にカザフスタンを訪問した。共同声明では両国の経済関係をより高度な水準に引き上げることが重要とし、鉄道を含む交通インフラ、都市インフラ、医療などの分野での協力を進める考えが示された。また、両国の企業や団体との間で融資、農業関連、鉱物資源開発などに関する15件の協力文書が調印された。同月には2014年に両国間で調印された日カザフスタン投資協定が発効した。